

氏 名 (本 籍) ^{たん}淡 ^の野 ^{あき}明 ^{ひこ}彦 (奈良県)

学 位 の 種 類 理 学 博 士

学 位 記 番 号 博 乙 第 3 7 2 号

学 位 授 与 年 月 日 昭 和 62 年 3 月 25 日

学 位 授 与 の 要 件 学位規則第 5 条第 2 項該当

審 査 研 究 科 地球科学研究科

学 位 論 文 題 目 **Formation of Coastal Tourist Areas in the Kinki District**
(近畿地方の沿岸域における観光地域の形成)

主 査 筑波大学教授 理学博士 山 本 正 三

副 査 筑波大学教授 理学博士 奥 野 隆 史

副 査 筑波大学教授 理学博士 佐々木 博

副 査 筑波大学助教授 理学博士 高 橋 伸 夫

副 査 筑波大学助教授 理学博士 石 井 英 也

論 文 の 要 旨

この研究の目的は、近畿地方の沿岸域を例として、観光地域の形成の条件、過程および空間構造を明らかにし、あわせて他の地理的諸事象の空間構造とに対照しつつ、その特質を解明することにある。そのため、まずはじめに、近畿地方の沿岸域における観光地域の形成過程を概観し、その基本的な類型を設定することによって観光地域を区分した。観光地域には、単一機能に基づく3つの単一型観光地域の類型（景観型観光地域、民宿型観光地域、リゾート型観光地域）と、複数の機能をもつ複合型観光地域が認められた。これらの類型地域について、その形成の過程と条件および空間構造を、それらが近畿地方の沿岸域で最も集中的、典型的に発達する三重県志摩地方の場合を選んで詳細に実地検討した。この検討に当たっては、観光地域の形成を単に観光施設の立地や分析、観光客の流動などの、いわゆる観光現象の地域的展開として促えるのではなく、観光地域の形成を、地域の社会・経済の全体的構造のなかで考察し、その条件と構造を解明するという方法を用いた。

この結果、次の様な一般的な傾向が明らかになった。

- 1) 4 類型の観光地域の形成についての研究から、近畿地方の沿岸域における観光地域形成の

基本的条件として、第1に、観光対象となる資源的な基盤の存在があげられる。具体的には、気候の条件、地形的条件、観光業に利用が可能な土地および海面の存在である。第2は観光開発を意図し、そのために必要な計画を実施する主体の存在、つまり、観光資本、地域の行政組織、および住民の対応といった主体的条件をあげることができる。これらの観光開発主体は潜在的な観光資源基盤を開発する役割を果たす。第3の基本的条件は、輸送手段等のインフラストラクチャの存在と、観光を指向する、地域の地理的慣性である。観光地域においてはその市場は地域外に存在するので、発生するレクリエーション需要を観光地域に導く手段として、量的、質的に優れた交通機関の存在が不可欠である。地理的慣性とは、その地域がもつ、観光地域の形成に向わせる個有の正確で、歴史的な遺産、先行性、地名性にその根源がある。これらの基本的条件が組み合わされることによって、観光業を中心とした空間構造が生じ、観光地域の形成が可能になることが実証された。

2) それぞれの類型によって観光地域の形成に必要な基本的条件と、それらの組み合わせには当然相異があり、資源基盤とその利用の指向性は類型の異なる単一型観光地域の形成で最も鍵的役割を果たしている。比較的狭い地域に多種類の資源が集中している場合には、複合型観光地域の形成が促進される潜在的可能性がそなわっていることが明らかにされた。

3) 単一観光地域はそれぞれ核を中心に統合された機能的空間単位で、相互に競合関係において並存しながら、より大きな地域単位を形成することが多い。海水浴場をめぐって形成された民宿型観光地域では、若狭湾岸に典型的にみられるように、この傾向が強い。複合型観光地域では、異種単一型地域からなるより高度な機能的関連がその空間構造の基本的特徴である。この類型地域は近年発展してきたもので、鉄道資本を背景とする観光企業の指向性が直接間接、その形成に大きな役割を果たしてきた。

4) 観光地域の空間構成には、他の経済活動にみられる空間構造と多くの共通性がみられる。とくに発達した経済地域に特徴的な集積経済原理に基礎をおく複合機能的空間構造の形成が近年明瞭になってきた。しかし、観光地域の場合には、この空間構造形成に資源基盤の制約性が強く作用していることが確認された。

審 査 の 要 旨

経済の高度成長に伴い、レクリエーション活動が急速に発達してきたが、それにつれて全国各地に観光地域が形成されてきたばかりか、そのための開発計画が全国的規模で策定されつつある。地理学においては、地表の空間構造の解明という個有の課題の一環として、観光地域の研究が重要な課題になってきた。淡野氏は、近畿地方の沿岸域の観光地域を例として、観光地域の形成要因とその空間構造を、経済諸活動および都市の空間構造に関する研究成果と比較対照し、それら

の類似性と相違性を明らかにし、特色づけることを試みた。この研究の成果は地理学のこの領域にとってきわめて有意義であるばかりか、とくに経済地理学に対して大きな寄与をなすものであり、本論文には高い評価を与えてよい。

よって、著者は理学博士の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。